

学校関係者評価委員会報告書

学校法人瓶井学園日本メディカル福祉専門学校は、令和4年度学校自己点検・自己評価結果に基づいて、令和5年7月29日に学校関係者評価委員会を実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

令和5年 7月31日
学校法人瓶井学園
日本メディカル福祉専門学校
学校長 瓶井 修

1. 学校関係者評価委員

氏名	所属
太田 昌憲	社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
北野 暢隆	社会福祉法人若葉会保育園こどものくに 園長
蔵敷 重壽	元大阪市立都島工業高等学校 校長、 元大阪市教育委員会事務局 高等学校教育課長
檜村 友隆	兵庫県臨床工学技士会 理事

2. 学校側出席者

瓶井 修	日本メディカル福祉専門学校 学校長
堀川 茂野	日本メディカル福祉専門学校 副校長
中道 和則	日本メディカル福祉専門学校 教務課長
小保方 敬子	日本メディカル福祉専門学校 教務主任

3. 議事報告

項目	評価・意見
(1)教育理念・目標	「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」についてはホームページ上で公開されており、周知されていると考えている。
(2)学校運営	「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」については必要な情報については学校のホームページ上で公開している。
(3)教育活動	指定養成校である為カリキュラム変更については臨床工学科、こども福祉学科ともに厚生労働省の指定カリキュラムのため、補佐的な講義実習となる。 臨床工学科では、基本的には対面で授業を行い、手指消毒、体温チェックの徹底を行った。発熱者が多く出たときや感染者がでたときのことを考え、いつでもオンライン授業に切り替えられる準備はしている。 今年度も2年生を対象に情報処理（機器管理データベース）関連の特別講義を3回実施してその後学生に対してテーマを設定してもらいデータベースを作成し発表してもらった。感染対策を十分に実施した上で患者さん対応について学ぶ OSCE 実習を卒業生12名を指導者役として、実際にクリニックにて行った。 1年生を対象にした病院見学は、大阪府の感染者増加の影響で今年も

	<p>実施することができなかった。</p> <p>また、令和5年度から、卒業生による特別講義の実施を行っている。</p> <p>こども福祉学科では対面授業を原則とした上で、オンライン授業併用や感染予防対策をとった上での学科運営（実技科目の実施）を行った。</p> <p>又、豊新かめっこ保育園への見学実習を人数の細分化により実現するなどの工夫を行うことが出来た</p> <p>十分なレベルの教職員を確保できているが、外部研修に関しては、大阪府専各連の行う研修や、各学科の専門的な研修の案内を行い、実際にオンラインで参加してもらっている。</p>
(4)学修成果	<p>資格取得率の向上については、</p> <p>臨床工学科では、成績が伸び悩んでいる学生に対し、国家試験前の学生個人対応をおこなうことで国家試験合格率を全国平均とほぼ同じであった。この取り組みは今後も続けていく。</p> <p>6名の退学者がでており、学生の変化を早めにとらえて対応していく必要がある。</p> <p>こども福祉学科においては、就職、資格取得率については全員保育士資格取得させることができた。</p> <p>通学課程（本科生）では退学者を出すことなく、丁寧に関わり、単位取得に繋げることが出来た。</p>
(5)学生支援	<p>学生の健康管理については</p> <p>体温チェックや手指消毒など行っている。また年に1回健康診断も行っている。</p> <p>保護者と適切に連携しているか</p> <p>令和4年度は感染対策を実施の上保護者説明会を短時間で行った。保護者とは電話連絡などで連携の場を作っていく。</p>
(6)教育環境	<p>学内外の実習施設、インターンシップ十分な教育体制を整備しているか</p> <p>臨床工学科では臨床実習を毎年行っており、成果については報告会で発表してもらっている。令和4年度からは臨床経験が十分な教員に、臨床実習前に学内実習を十分に行ってもらっている。</p> <p>こども福祉学科では演習科目（音楽）については継続して複数名の教員を確保し、個別指導の機会を充実させているが、保育現場との連携により特別講義のような形での授業運営は行なえていない。については、職業実践校としての取り組みを実現することが課題である</p>
(7)学生の受入れ募集	<p>月に一回ペースのオープンキャンパスイベントの実施、オンラインでのオープンキャンパスの実施、SNSの発信、ガイダンスへの参加、高校訪問などを行っている。</p>
(8)財務	<p>特に問題なし。</p>
(9)法令等の遵守	<p>「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」については意見をいただき改善できた部分と改善できていない部分がある。改善できていない部分については今後改善できるよう努力していく。自己評価はホームページで公開している。</p>
(10)社会貢献・地域貢献	<p>特に問題なし。</p>
(11)国際交流	<p>「学習成果が国内外で評価される取組を行っているか」について、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>学習成果が国内外に伝わるよう、ホームページを充実させ、情報発信を強化する。</p>

